

Beyond 5G 推進コンソーシアム 企画・戦略委員会会合（第1回）

議事要旨

1. 日時

令和2年2月1日（月）16:00~18:00

2. 開催方法

Web 会議によるオンライン開催（Webex）

3. 出席者（敬称略）

森川博之 企画・戦略委員会委員長（東京大学大学院工学系研究科教授）、谷直樹 企画・戦略委員会副委員長（株式会社 NTT ドコモ常務執行役員(CTO)）、中村武宏 白書分科会主査（株式会社 NTT ドコモ執行役員ネットワークイノベーション研究所長）、前田大輔委員（KDDI 株式会社執行役員技術企画副本部長）、関和智弘委員（ソフトバンク株式会社常務執行役員モバイル技術統括モバイルネットワーク本部本部長）、内田信之委員（楽天モバイル株式会社執行役員技術戦略本部本部長）、企画・戦略委員会登録会員、総務省総合通信基盤局

4. 配布資料

なし（投影資料のみ）

5. 議事要旨

（1）森川博之 企画・戦略委員会委員長挨拶

Beyond 5G では、ゲームチェンジが様々なところで起こってくる。Beyond 5G に向けてのこれからの 10 年間では、通信側だけでなく、5G を使っていただくユーザー企業の方々にもゲームチェンジが起こってくる。つまり、これからのデジタルの時代では、関係するステークホルダーの方々が、今までよりもさらに増えていくと考えている。スマートシティなどが代表例だが、それ以外にも様々な業種の方々が関わってくるだろう。そして、そのインフラが 5G あるいは Beyond 5G になるということである。従って、Beyond 5G を多くの方々と一緒に作り上げていきたいと考えている。本日は、この委員会で取り組む内容について事務局から紹介するが、それに留まらず、多くの方々とざっくばらんに議論しながら進めていきたいと考えており、ぜひご意見やアイデアなどを共有していただきたい。多くの方々の力が必要だと考えており、企画戦略委員会の方々の力添えをいただきながら推進していきたいと考えている。

（2）企画・戦略委員会の運営方針について

投影資料 P3-8 に基づいて、事務局より説明が行われた。

運営方針について、会合参加委員により承認が行われた。

（3）副委員長指名

森川委員長より、谷副委員長が指名された。

(4) 企画・戦略委員会および国際委員会の取組方針

投影資料 P10 に基づいて、事務局より説明が行われた。

(5) 検討事項

投影資料 P11,12 に基づいて、事務局より白書分科会設立に関する説明が行われた。

白書分科会設立について、会合参加委員により承認が行われた。

森川委員長より、中村白書分科会主査が指名された。

(6) 本委員会関連取り組みの現況報告

投影資料 P14-19 に基づいて、事務局より説明が行われた。

(7) 各委員の意見表明

各委員の意見は以下の通り。

○中村武宏委員（株式会社 NTT ドコモ 執行役員 ネットワークイノベーション 研究所長）

弊社としては、Beyond 5G や 6G 関連の検討はすでに精力的に実施している。その一環として、ホワイトペーパーを 2020 年 1 月に発表している。ただし、当然ながら弊社だけではなく、日本としての推進が非常に重要であると考えておられる。そのために、日本やさらには世界を視野に入れ、日本としてどのように推進していくのかについて、しっかり意見をまとめながら推進していくべきだと考えている。弊社がすでに検討している内容や今後検討する内容を寄与することで、日本としての Beyond 5G に向けた立ち上げに精力的に関わっていき、貢献していきたいと考えている。一方で、3GPP での標準化活動を含め、日本の国際的な影響力が低下しているというのは否めない。日本としては、日本企業からの参加者数や寄与度の増強、協力体制の構築が非常に重要だと考えている。また、5G からの傾向であるが、通信業界だけではなく、他業界からの参画が非常に多くなっており、Beyond 5G や 6G においても他業界の方々と協力し、世界で活躍できる技術者や研究者を排出できるように、育成も含めて推進していくべきだと考えている。いずれにせよ、日本としての考えを早期にまとめ、それを世界に対してアピールしていくことや、世界での検討内容も理解した上で、日本としての検討も内容も発展させることなどを通して、世界でイニシアチブを取れるような形に出来ればと考えている。それに向けて、本コンソーシアムの活動は非常に重要であると考えており、弊社としても積極的に貢献させていただきたい。

○前田大輔委員（KDDI 株式会社 執行役員 技術企画副本部長）

弊社は、Beyond 5G 時代を見据え、Society 5.0 を踏まえた KDDI Accelerate 5.0 という次世代社会基盤構想を打ち出した。これにより、日本の次世代の産業基盤インフラとして強靱なネットワークをしっかりと整備していきたいと考えている。本コンソーシアムは、Beyond 5G 推進戦略を産官学連携によって強力に推進

することがミッションであり、**Society 5.0**の加速と共に、日本の技術力や各産業の国際競争力を向上させることがゴールであると認識している。日本の技術力の強化は非常に重要だと考えているが、一方で、国際水準から劣後しないように、海外の最新技術もしっかりと把握した上で、融合していくことも考える必要があると考えている。つまり、日本の技術が世界から孤立せず国際的な支持を受けられるようにし、国際標準技術になるまで導くということが重要だと考えている。また、**Society 5.0**の実現・加速や、**Beyond 5G**時代のユースケースの実現という点においては、**Beyond 5G**のネットワークレイヤーだけの技術研究開発あるいは進化だけでは実現できないと考えており、プラットフォームレイヤーあるいはその上のビジネスレイヤーも含む、3つのレイヤーを進化させ、ユースケースを考えていく必要がある。弊社としても、この3つのレイヤーについて多くのパートナー企業と共に、環境整備を進めるための取り組みを行っている。それにより、フィジカル空間とサイバー空間の循環が加速され、ニューノーマル時代の新しいライフスタイルや、円滑な経済活動の維持といった次世代社会が形成されると考えている。また、2020年12月には、弊社の研究所がパートナーとの共同研究の場として **KDDI research atelier** を立ち上げて、ユースケースの創出に向けた取組みを開始している。この取組みも含め、本委員会のアウトプットに貢献できればと考えている。

○関和智弘委員（ソフトバンク株式会社 常務執行役員 モバイル技術統括モバイルネットワーク本部本部長）

弊社は、携帯電話事業に参入してから14年間、多額の設備投資によって世界水準の非常に高いレベルでモバイル通信網を構築してきたという自負がある。**5G**においては、都市部や地方に差異が出ないように、面的に整備をすることで、日本全体のデジタルライゼーションが加速するために貢献していきたいと考えている。**Beyond 5G**に向けては、今後10年間でさらに設備投資の規模を増やし、この世界最高レベルのネットワークをさらに強靱なネットワークに進化させることで、普及に貢献していきたいと考えている。我が国の**Beyond 5G**の取り組みに関する課題意識だが、まず**5G**における日本の技術開発や世界に対する日本の貢献度は、**3G**や**4G**と比べて不足している部分があったと考えている。従って、**Beyond 5G**では、日本の存在感を上げるための、世界をリードしていく取組みが必要になってくると考えている。その取組みによって、あらゆるモノがつながる**Society 5.0**の進展を促進させることができ、かつ、**Beyond 5G**としても世界に対して発信力のあるネットワークの整備が実現されていくのではないかと考えている。本コンソーシアムに対する期待としては、オールジャパンで産学共同の横串を通した幅広い検討をしていくことが非常に重要であるという認識の中で、本コンソーシアムがその牽引役として産学の幅広い関係者の協調関係というものを

導いていくということである。また、Beyond 5Gにおける新しい技術などの導入支援措置も検討していただきたい。併せて、主に標準化に関して、Beyond 5G新経営戦略センターとの役割分担や有機的な連携を通し、Beyond 5Gの実現がより現実的なものになるように進めていく役割を担っていくことにも期待している。弊社として本コンソーシアムに貢献できることとしては、通信インフラを提供することに加えて、元々の強みとなるインターネットカンパニーとしての社会のニーズを幅広く見て対応するというところであると考えている。その強みを活かして、Beyond 5Gに求められるネットワークやサービスに関する部分において、本コンソーシアムの中での検討に貢献できればと考えている。

○内田信行委員（楽天モバイル株式会社 執行役員 技術戦略本部 本部長）

弊社は、現在はまだ4Gや5Gの置局を精一杯進めているところであり、Beyond 5Gに関する取組みについては、遅れている部分もあると認識している。ただ、その中で弊社が得意としている仮想化や自動化、衛星通信の取組みなどのうち、今後Beyond 5Gに関連してくる部分については、最大限貢献していきたいと考えている。Beyond 5Gに関する問題意識としては、日本としてのプレゼンスを上げていくということが一番重要だと考えている。弊社の国際標準化に向けた取組みとしては、O-RAN Allianceや3GPPに人員を送り込み、検討に参加していくという段階に辿り着いたところであるが、その延長として、Beyond 5Gに関して海外において様々な取組みができればと考えている。また、弊社の強みは、スピード感と、すでにグローバル人材を抱えて事業を推進していることであり、Beyond 5Gの取組みに関しても、日本のプレゼンスを向上させられるように尽力していきたいと考えている。

投影資料 P21 に基づいて、事務局より他主要な委員意見の紹介が行われた。

(8) 当面の進め方について

投影資料 P22 に基づいて、事務局より説明が行われた。

(9) 閉会

以上